

東京都は新宿ダンボール村を破壊する4号街路「動く歩道」建設をやめろ!

明日、都庁へ怒りのデモを叩きつけるぞ!

撤去反対! 野宿労働者大集会 基調

明日(10月2日月曜)の行動予定

- * 朝 8時から9時 ビラ撒き
- * 午前11時インフォメ前集合
小集会、飯のあと移動
- 午後1時大久保公園着
- * 午後2時デモ行進出発
都庁前で代表団による要望書提出
デモ終了後中央公園にて解散

新宿連絡会(新宿野宿労働者の生活就労保障を求める連絡会議)

台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館気付け ☎03(3876)7073

撤去反対！野宿労働者大集会基調（案）

新宿連絡会・事務局

一、はじめに

野宿を強いられている仲間たち！

東京都による再度の2・17が準備されようとしている。この秋から冬に向け、俺たちの仲間百人以上が住んでいる新宿駅西口南北地下通路四号街路に「動く歩道」を設置すると言う計画だ。新宿の仲間のたたかいで一年半近く中断されていた「路上廃材撤去作業」を奴等は再開し、俺たちのダンボールハウスを破壊し、毛布や荷物を強奪し、俺たちを四号街路から叩き出し、俺たちの寝場所をフェンスで囲い工事の着工を行なおうと企んでいる。大量の警察官を動員し、大量の作業員を動員し、一挙に俺らを蹴散らそうと、奴等は画策している。更に、奴等は昨年2・17同様、プレハブ施設を準備し、叩き出された仲間を二週間たらず放り込み、叩き出しをごまこそうとしている。「撤去じゃない」「強制立ち退きじゃない」「出来る限りの人命保護はしたんだ」と、奴等はそう世間を言いくるめるつもりなのだ。

この一斉撤去計画は、すでに都・建設局工事担当者の手を離れ、副知事を筆頭に、企画審議室長、福祉局長、建設局長レベルの対策会議を何度ももつなど、東京都全体の意思として進められようとしている。これは、単に四号街路の工事だけの問題ではなく、奴等の頭は、この工事をきっかけに新宿から野宿者を一掃するか？この一点に絞られている。

都庁移転に歩調をあわせるかのようにバブルがはじけ、多くの失職した日雇・下層の仲間たちが大量に野宿を強いられるという事態。今日新宿の西口だけで五百人以上もの仲間が野宿を強いられている現状。東京都の官僚共は自分のお膝元に野宿者があふれかえっているこの事態を「日本の恥」「国際都市の恥」だと思っている。かと言って、奴等は、福祉対策を進めるとか、失業対策をするとか、俺たちに金は使いたくない。二信組救済には三百億、コスモ救済には二百億出しても、俺たちにはピタ一文も出したくない。「金を使わずとつとり早く新宿から叩き出してしまえ」これが東京都の官僚共の本音だ。

何故、このように、新宿が最大の焦点になっているのか？それは、単なる官僚共の地域エゴだけではない。六百名近い新宿の団結した仲間の存在、四号街路ダンボール長屋に象徴されるような巨大な野宿者の生活空間と仲間のコミュニティ。俺らの存在自身が、まさに豪華

絢爛な都庁と西口再開発地帯とは対称的であり、そして、俺らの存在自身が労働者支配の実相を見え隠れしない現実として映し出しているからこそ、奴等は躍起になって俺らを追い出そうとしているのだ。景気の良い時は無権利状態でこき使い、不況になれば放り出され、野宿―野たれ死にを強いられる日雇・下層労働者が置かれている現実。更に、今日の産業再編と産業の空洞化の中、労働者の権利を剥奪しながら行なわれている労働力流動化政策の中、貧困ラインぎりぎりの労働者の大量排出と、その一部が野宿生活への追い込まれて行く新たな貧困問題、すなわち、大量失業時代の萌芽。これら社会の矛盾と支配の実相が手に取るように分かる新宿。そして、この支配にただ打ちひしがれているのではなく、団結をもち、コミュニティをもち、行政に立ち向かって来た新宿の仲間たたかい。社会的弱者を切り捨て、ゼネコンなど大資本の利害を代表して来た東京都の連中にとってみれば、俺たちの存在そのものが、俺たちのたたかいそのものが恐怖なのだ。

東京都は、今本腰をあげて新宿の仲間を叩き出そうとしている。だからこれは、工事を予定の四号街路だけの問題じゃない。まさに、「一斉撤去」の悪夢が新宿に再現されようとしているんだ。東京都が動けば国も動くだろうと、巷では言われている。建設省管轄の国道などでも撤去の動きは連動してくるだろう。既に八月には西口地下ロータリー部分での新宿署・地域課による部分撤去が開始されている。京王新線地下通路も、八月の新たな警告書にみられるように、警察が全面に立って道路管理者（京王電鉄）のネジをまいている。まずは南北の四号街路は工事のためと閉鎖され、その周辺の仲間も工事がらみで撤去される。派出所周辺も警察によって撤去が繰り返される。そして、京王新線でも撤去の動きは強まり、更に地上の国道、都道も撤去へと動き出すだろう。

奴等の狙いは、工事の完成ではなく、工事を利用しての野宿者の一掃だ。奴等にはありとあらゆる手を使い、俺たちに襲いかかってくるだろう。これが、工事計画が建設局工事担当者の手を離れ、副知事を筆頭とする全庁的な対策に入ったという意味である。

新宿六百人の生きる権利が、今、強奪されようとしている。野宿の仲間が作って来た、新宿のたたかいが、今、押しつぶされようとしている。仲間たち！黙っていたら殺されるだけだ。新宿を叩き出されて、仲間たち、どこへ行く？六百人もの運命が、この秋から冬、決められようとしている。黙って寒空の中バラバラにされ殺されて行くのか？それとも、俺らの意思を東京都に叩きつけ、工事計画を白紙撤回させ、俺らが納得する対策が整うまで新宿で粘り強く仲間と共に生きていくのか？

俺らが思う以上に、新宿の仲間の力とたたかいは、各地から注目を浴びている。身内から思えば、それはまだまだ不十分な点が多い。けど、一年半近く、三建の撤去をぶっとめて来た力。暖かくてでっかい俺たちの団結をやしなない、仲間のコミュニティを形成してきた力。そして、東京都や新宿区に果敢に挑んでいった力。俺たちの団結とたたかいは、注目と支持を確実に勝ち取って来ている。俺たちを批判する輩も俺たちの力を無視できない所まで、俺たちは確実にこの二年近いたたかいの中で成長して来た。そして新宿のたたかいはある事によって渋谷の仲間も奮起し自ら立ち上がり、池袋の仲間も馬場の仲間も立ち上がるうとして

いる。各地でバラバラに生きている野宿の仲間にとって新宿の取り組みは生きる証である。いままで、諦め、泣き寝入りをしてきた多くの仲間が、たたかいに触れる事で、生きる希望をもち、生活保護を獲得し、また、再就職の道を選んで行った。仲間に希望を与え続けて来たこと、これは、俺らの運動によってかけがえのない財産だ。

仲間たち！この、俺らが作ってきたでっかい財産を仲間の力で守り抜こう！俺らの運命と俺らの未来が、このたたかいに凝縮されているんだ。俺らの団結を破壊し、俺らのコミュニティを破壊し、俺らのたたかいを破壊しようとする東京都に、俺らのたたかいの地平で、俺ら野宿労働者の流儀でとことん対決して行こう。

全都の仲間の力で、全国の仲間の力で新宿を守り抜こう！

二、「動く歩道」など新宿にはいらぬ！

奴等は「動く歩道」の工事を名目にして、俺らを新宿から叩き出そうとしている。これが奴等の最大の弱点だ。2・17で社会的な非難をあげた東京都は、素手のままでは俺らを叩き出せない。何らかの理由をつけなければ奴等は動き出せないんだ。事実、奴等はまったくのペテンだが、「路上生活者に関する都区検討会」を設置し、俺ら野宿者の問題は「社会的な要因に根差す都市問題で、総合的な対策が必要だ」と、現在とりわけ福祉分野における対策を具体的に検討している。あからさまに叩き出しなどして、それが問題にされたら、それこそ言ってる事とやってる事が違ふと都民からの非難が集中するだろうし、又、都と特別区の協調体制が一気に崩れてしまう。事実、新宿区では、俺らの抗議の前に、「環境浄化対策会議」の看板を時代にそぐわないと降ろし、「環境浄化」による追い出しは今後一切しないと確約している。時代の趨勢は「ホームレス問題は社会的な問題であり、本人に責任を転嫁させる問題ではない。追い出しのような排除の姿勢では決して解決できない問題である」との認識が大きな位置を占めており、東京都もこれに従わざるを得なくなっている。昨年2月から5月にかけての新宿の仲間の撤去問題をめぐる壮絶な攻防は、このように世論を確実に変えて来ている。

だからこそ、東京都の連中は何らかの名目をつけざるを得ない。「動く歩道」建設は格好の材料なのだ。公共の福祉のためなのだから仕方ないと、世間を納得させ、公共の福祉のためなのだから、出て行くのが当然だと俺たちを納得させようとしているんだ。

俺らも、その工事が本当に公共の福祉のために必要なものなら、闇雲に工事そのものには反対などしない。しかし、この「動く歩道」が、今、どうしても必要なものか？と言う点については大きな疑問を持っている。

俺たちを追い出すための名目が、この「動く歩道」ならば、俺たちは、俺たちの生活を守るためにもこの名目自身に批判を加え、この名目自身を白紙撤回させる事で、東京都の思惑を根底からぶっつぶして行こうと考えている。

東京都の都合の良い具合に、四号街路の「動く歩道」計画は都庁移転後の都庁周辺の都市整備計画に盛り込まれていた。都庁を中心とする新宿西口再開発地帯を引き立て、駅から

再開発地を結ぶ贅沢豪華な交通ベルトと言う計画だ。勿論、この計画の当初はバブル最盛期。経済効率など考えず、ただただ、都市に豪華な箱ものを建設し、それを軸に金ピカな都市を作ろうというのが、その発想のベースだ。金はいくらでもあり、ビルを建てればいくらでもテナントは埋まる。そんな時代の発想であった。

そして、この計画の当初は、都市博覧会会場に設置、使用した「動く歩道」を、博覧会終了後、新宿に据え付け直す計画であった。すなわち96年度の後半にかけての設置予定であったのだが、その都市博覧会は中止の憂き目。都市博覧会に歩道を設置する予算は全額、日本宝くじ協会の寄付をあてる段取りであり、その宝くじ協会が今年度予算にこの工事予算を既に計上している関係上、急遽、今年度中の新宿四号街路での工事着工、完成へと計画を前倒したという、曰く因縁つきの計画変更であった。すなわち、今年度中に都市博覧会会場に設置される筈の歩道が、まわりまわって、前倒して新宿に据え付けられる事となったのである。この工事の総額が約12億円。予算は建設局が立て替え、工事完成の暁に日本宝くじ協会から寄付されるという手順である。

「動く歩道」というのは極めて贅沢な設備である。要は「なくてもいいけど、あれば便利」という代物でしかない。歩けば事足りるところを、更に早く歩くための設備である。東京都は「お年寄りや障害者に便利」といかにも福祉的な観点の設備であることを強調しているが、実際、現在稼働している「動く歩道」（東京駅や池袋サンシャインなど）では、先を急ぐサラリーマンでこったがえし、とつてもお年寄りや障害者が安心して利用できる代物ではない。事実、東京駅の「動く歩道」では子供がケガをするという事故すら起こっており、福祉的観点の設備にはなっていないことがはからずも発覚している。そもそも、新宿西口再開発地帯に通じる四号街路は、都庁職員か高層ビルに勤めるサラリーマンくらいしか利用していない。一般の客足は主に東口の方であり、一般の人は都庁の展望台に行く団体客がたまに通るくらいである。しかも、都庁へ向かうには都営バスが運行しているのであり、脚力に不安のある人はほとんどバスを利用している。おまけに来年か、さ来年には地下鉄12号線が開通し、都庁のま下に駅までも出来る。他に交通手段がない所なら、話しはいくらかは分からないでもない。しかし、交通手段が事実あり、一般の人の通行が多く見込まれる場所でもないのだから、結局の所、都庁職員かサラリーマンの遅刻を防止する設備か、交通費を浮かす設備にしかならない。東京都の言う公共性は、自分の所の職員を優遇させる公共性しかならず、一般的にそんなものは公共性とは言いがたい。

しかも、バブル最盛期なら、社会的な合意はいくらかは取れるだろう。しかし、現在、不況の中、多くの庶民は贅沢もせず、汗を流し働いているのに、しかも、失業し、野宿生活を余儀なくされている人々が社会問題化するほど増え続けているのに、都庁職員だけを優遇する「なくてもいい」「動く歩道」を野宿者を追い出してまでも建設するとは、どういう神経なのだろうか？必要に迫られている問題に対して金を使わず「なくてもいい」ものには金を注ぎ込む。いくら工事費が宝くじ協会から寄付されると言っても、完成後の維持費はこれ又莫大な額になることが予想され、東京都はその金を都民の税金で賄おうとしているのだ。こんな時代錯誤な計画ではとうてい社会的な合意は取れないだろう。

更に、この計画は都市博覧会とセットのものとしてあるということだ。日本宝くじ協会の今年度予算に計上された歩道建設費は当然、都市博覧会に設置される筈の「動く歩道」に支

出されるものである。都市博が都民の声で中止になった今、この都市博関連予算は凍結されてしかるべき所を、わざわざ計画を前倒して新宿に設置しようとしている。都市博は「都民の税金を無駄遣いするな。バブル期の計画を見直し都民の実情にあった都政を行なえ」という都民の圧倒的な声によって中止に至ったのである。それなのに、都市博会場じゃなければいいだろうと、同じ文脈の工事を新宿にもって来る。こういうのをペテンと言わずに何と云うのか？当初の計画では都市博が前提として予算的な裏づけがなされ、それを根拠に都市博終了後に新宿に据え付け直すという計画であったのではないか？確かに巨大な設備を放置しておくのはもったいない。据え付け直すということも考えられるだろう。しかし、新宿設置計画はあくまで、都市博を前提とした計画なのであって、都市博が中止となった今、この計画を根本から見直す必要があるのは当然である。

このように「動く歩道」は、決して公共性を重視した設備でもないし、緊急性がある設備でもない。しかも、都市博中止後とってつけたように、都市博予算で新宿に据え付けるという性急さ。裏があると思われるも仕方がない工事計画である。

俺たちは今後、①現在進められている「動く歩道」年度内着工計画を白紙撤回すること②その上で、この工事計画について仕切り直しを行ない、公開性の公聴会を開催するなど、工事予定地に住む仲間はもちろんのこと広く都民に対し、工事の説明と情報を公開し、意見を広く聴取しながら、工事計画を抜本的に見直すこと。を東京都に求めて行く。

奴らがこの工事を俺たちを追い出す口実にしようとするなら、逆に俺たちはこの工事に疑問を投げかけ、工事をストップさせる運動を盛り上げ、俺たちの問題が未解決なことを東京都や世間に突きつけていく突破口としてやる。

俺たちはありとあらゆる手段を使って、この無用な工事に食らいつく。
新宿には「動く歩道」などいらん！工事を白紙撤回させるぞ！これが、俺たちの総意だ。

三、「越冬対策」には気をつける！

東京都・企画審議室と福祉局は、今年の冬の越冬施設の収容枠を増やす事で、この問題の全庁的な合意を取り付けようと、今、必死になって動きまわっている。工事が俺たちを追い出すための口実なら、この越冬施設への収容枠増員が、追い出しじゃなく「人命保護」だと世間を納得させるための口実にしようとしている。

今年の冬も、プレハブ施設に二週間入れてやる、増員をしたから連続で一と月くらい入れてやる、だから四号街路を黙って明け渡せと、奴等は俺たちに言いたいのである。

こんな取引は子供でもない。二週間か一月だけ収容しておいて、期限が切れたら、放り出され、新宿に帰って来ても寝る場所もない。「やる事だけは、やりました、あとは死のうが生きようがあなたの勝手です」という訳だ。2・17の再現だが、2・17より質が悪い、

今度は四号街路が両側とも閉鎖されるのである。寒空の中、どこへ行けというのだ？また、
昨年のように凍死しろというのか？

奴等の狙いは明白である。俺たちにとって、冬場が一番厳しい事を逆手に取り、目の前に
ニンジンをつぶさげ、俺らを収容してる間に、四号街路の一斉撤去を行なって俺らの寝場所
を一気に押しつぶそうという魂胆だ。

が、一度やった手をもう一度使うなど賢いものがやることではない。俺たちは越冬対策の
欺瞞を肌身に染みて感じとっている。「ホームレスに暖かい冬を」というキャッチフレーズ
は嘘八百。一番厳しい年末年始を放置し続け、ブタ小屋施設は二週間だけ。就労対策すらも
真面目にやらず、仕事が決まったのはたった数人。病人食は用意できないは、シラミにたか
られるは、物は盗まれるは、学生バイトの職員はうるさいは、おまけに前回の冬には施設の
中で二人の仲間を殺しておきながら、東京都はそれに、居直り続けている始末。うまい話し
にや、裏がある。

撤去を伴わなかった前回でさせこんなにトラブルが発生したのに、撤去と工事をセットに
して今回「越冬対策」をやろうと言うのなら、尚の事「越冬対策」など、誰も希望をもたな
くなる。当然撤去の難寄せが、街頭相談や福祉の窓口、そして、施設の中でも爆発するだろ
う。

「越冬対策」は各区が協力しなければならたない。追い出しとセットの「越冬対策」に
協力するなど、俺らは新宿福祉や特別区人事厚生事務組合に申し入れをしている。東京都の
思惑を知って協力するような事があれば、今度という今度は俺たちは新宿区も許さない。そ
して、施設管理者の特人厚、委託業者の有隣協会、施設設置を許可している大田区も同罪だ。

俺たちは卑劣な仕打ちに対してはとことんたたかう。人の胃袋を握って、叩き出しを行な
う事など、断じて許さない。

叩き出しとセットの「越冬対策」なら俺たちは一切の協力を拒む。福祉施策を叩き出しの
隠れ蓑につかうなど役人のやる事ではない！

「越冬対策」を叩き出しの隠れ蓑に使うな！「越冬対策」は俺たち自身の手で変えてやる。
企画審議室、福祉局に抗議の声を集中させると同時に、新宿福祉、特人厚などへ、叩き出し
とセットの「越冬対策」に一切の協力をすると圧力を加えて行こう！「知らなかった」な
どでは今度は済まされない。俺たちの命がかかっているんだ。

仲間たち！「越冬対策」には、今度こそは気をつける！

四、三建による撤去は違法だ！「路上廃材撤去作業」を今すぐ中止せよ！

第三建設事務所による「路上廃材撤去作業」は昨年の五月以降、中断されたままになって
いる。俺たちのたたかいは、撤去をこれ以降やりたくても出来ない状態へと奴等を確実に攻
め込んできている。

が、現在、「動く歩道」工事着工のため、第三建設事務所は「路上廃材撤去作業」の再開

にむけ、着々と準備を進めている。すでに、撤去の警告書は印刷に回され、上の命令があればいつでも撤去作業を着工できる体制を整えている。何の名目もなければ撤去は恐ろしくて出来ない奴等も、今回は東京都や新宿署が全面的にバックアップするとあって、万全の体制で準備を整えている。奴等は単独では動きやしない、間違ひなく「動く歩道」建設と機を一にして撤去作業をしかけて来る。

が、この三建の「路上廃材撤去作業」は、最近の研究で違法性が高い道路管理権の越権行為である疑いが高まっている。彼等が依拠している道路法によれば、違法占有物の取り扱いは、工作物の除去や現状回復の命令が出来ることになってはいる。しかし、実際の除去作業については、道路管理者が勝手に持ち去ってはいけぬのだ。除去や現状回復の命令をしてもそれでも従わない場合は、行政代執行法という法律を適用し、除去を行なうという戒告を行ない、更に一定期間を置き代執行の通知を発し、意義申し立てや、弁解の機会を設けその上で、致し方がないと判断された場合にのみ工作物などの除去作業が始めて出来るのである。個人の私物を勝手に奪ってはならないという、まったく当たり前の法制度である。しかし、三建の連中は俺らにこのような手続きをいままですら取ったことがない。ここに彼等の法の違法な拡大解釈と越権行為がある。道路法には違法占有物や違法放置物件を速やかに除去しなければ道路の安全に支障がある場合、また、違法占有物や違法放置物件の所有者が判明しなく手続きが取りようがない場合についてだけ、上記手続きの例外規定を設けているのだが、三建は、その例外規定を俺たちの物件に無理やり適用しているのである。要は、俺たちのダンボールハウスを違法放置物件とし、緊急に除去しなければならぬ物件であるとし、またその所有者が分からない、と奴等は勝手に判断し、人の私物を強引に奪い取って来たのである。

奴等が一回でも、俺たちがダンボールを組み立てる時に注意をした事があるか？この一年半近く、奴等が一回でも俺たちの所にまわって、除去するよう注意した事があるか？俺たちの現状を放置し、容認してきたにもかかわらず、緊急性があると奴等は勝手に判断する。そして、俺たちはダンボールで寝起きている。現場に来て調べれば所有者が分からない事なんて、ほぼないだろうに、それでも所有者不明と勝手に判断する。このトリックを使って奴等は今まで好き放題の事をやって来たし、また、今回も同じ事をやろうとしている。恥の上塗りとはこのことだ。今まで黙って来たが、今度という今度は俺らも黙っていない。法的な手段も含め、あらゆる手を使って、違法な撤去をストップさせる。

そして、これまた最近、国連人権委員会の決議が発見された。二年前53ヶ国代表（日本政府も含む）の満場一致で採択された「強制立ち退きに関する決議」は、ホームレスやスラムへの補償なき強制立ち退きを禁止するというものだ。土地の保有の如何は問わずに、いわゆる「違法占有者」も適用されるものだ。日本政府はこの決議に道義的な責任を有している。それにもかかわらず東京都は国連決議に反することを今、まさに平然とやろうとしている。

「越冬施設」を準備したから「強制」ではないと言っても言い訳をするのだろうか？しかし、「越冬対策」は撤去や工事とは別ものであるというのが、おそらく公式見解だろう。この矛盾をどうやって説明するのか？

法を勝手にねじ曲げ、国連人権委員会の決議すら尊重せず、違法な撤去作業を再開しながら

ら工事着工を目論む東京都を許すな！
何度でも三連を攻め立てるぞ！

五、新宿からの叩き出しを許さない！明日、東京都に怒りの声を叩きつけよう！

仲間たち！

俺たちはこの二年近くのたたかいで、何を作ってきたのか？

一言で言えば、それは仲間の団結だ。そして、この団結を基礎に今まで虐げられ、社会のつまはじき物にされてきた俺たち野宿者が、始めて、この社会に憲義申立をし得る主体として登場しえた。このことが、この二年間あまりの俺たちの反失業闘争の最大の成果だ。

仲間が蹴倒しあうのではなく、仲間が結び付き、仲間が助けあうすばらしさ、俺たちの団結は闘争の時だけの団結じゃなく、日常的な仲間の生き方、飯の食い方、仕事の行き方までも変えて来た。厳しい生活だからこそ、仲間がいたわり、助け合う事、俺らのコミュニティは強いられた現状から仲間を防衛するため、最低限必要な事だからこそ自然と生まれ得たコミュニティである。そして、このコミュニティを作ってきたのは、ここに集まった一人一人の腐っていない本当に純粋な仲間の心だ。

俺たちが作ってきた、俺たちの暖かくて、でっかい団結。俺たちのでっかいコミュニティ。この新宿の路上には、俺たちの息吹が根付いている。そして、俺たちの希望の芽が確実に育まれている。

俺たちが命を張って守るべきものは、俺たちが命を張って守らなければならないものは、この新宿の無数の仲間の団結であり、俺たちの、そして全部の仲間の希望が生まれているこの新宿のコミュニティだ。

仲間たち！生きる希望を持つ！生きる希望とはどこにある？生きる希望はここにある！仲間と共にここにある！

俺らの新宿を守り抜こう！仲間と共に守り抜こう！俺らが生き抜くために守り抜こう！

俺らの力は無限だ。そして、この無限な力を発揮しよう！仲間の力を信じ、大衆の力を信じ、俺らは東京都との全面戦争に突入する。撤去を許すのか否か？答えは二つに一つだ。青島知事に追い出し工事の白紙撤回を決断させ、撤去作業を闇に葬り、俺らの本当の生きる権利をこの新宿から勝ち取るう。

明日は都庁に向けたデモだ。今日、この場でこの基調を確認した仲間、全ての仲間の参加を要請する。朝11時、再度、この場に集まり都庁に向けた大デモンストレーションをやり抜こう。今こそ、俺らの怒りがいかほどのかを、都庁の連中に見せつけよう！

俺らには退く場所がない。勝利あるのみだ。最後の最後まで、仲間たち！たたかい抜かん！